

## 平成 30 年 6 月 9 日 臨床ウイルス学会総会 議事録

第 59 回日本臨床ウイルス学会会長

沼崎 啓 先生(国際医療福祉大学大学院 医療福祉学研究所 国際感染症学 教授)の司会で総会を開始した

庶務報告

### 1. 庶務報告

会員数 平成 29 年度会員数 728 名 (+59) (名誉会員 1 名)

平成 28 年新入会員 48 名、退会会員 36 名、会費未納退会 29 名、

住所変更届、退会届、3 年間会費未納入者へ督促 3 年間未納会員は自動退会に  
臨床とウイルスに挟み込みとは別途、会費請求を郵送

名簿管理 会費納入の督促と未払い年会費の請求、入退会者の管理

春恒社に業務委託 [cl.virol-kaiin@shunkosha.com](mailto:cl.virol-kaiin@shunkosha.com)

転居先不明の会員 20 名

賛助会員 12 社 平成 30 年 3 月 31 日現在、

メールアドレス登録 (6 月 30 日まで) 現在

会社名	郵便番号	住所
1) 武田薬品工業 (株)	103-8668	東京都中央区日本橋 2-12-10
2) 栄研化学	110-8408	東京都台東区台東 4-19-9 山口ビル 7
3) エスアールエル図書室	192-8535	八王子市小宮町 5 1
4) 化学及血清療法研究所	860-8568	熊本県菊池旭志川辺 1314
5) 第一三共 (株) ワクチン事業部	103-8420	東京都中央区日本橋本町 3-5-1
6) 大日本住友製薬	104-8356	東京都中央区京橋 1-13-1
7) デンカ生研	103-8338	東京都中央区日本橋室町 2-1-1 日本橋三井タワー 7 階
8) 一般財団法人阪大微生物病研究会	565-0871	大阪府吹田市山田丘 3 番 1 号
9) 富士レビオ	192-0031	八王子市小宮町 5 1
10) サノフィーパスツール	163-1488	東京都新宿区西新宿 3-20-2 東京オペラシティタワー
11) 北里薬品産業株式会社	108-0073	東京都港区三田 5-4-3 三田プラザビル 2 F
12) ジャパンワクチン株式会社	102-0081	東京都千代田区四番町 6 番 東急番町ビル 10F

問い合わせ先：日本臨床ウイルス学会会員事務局

TEL: 03-5291-6231, FAX: 03-5291-2176

E-mail: [cl.virol-kaiin@shunkosha.com](mailto:cl.virol-kaiin@shunkosha.com)

臨床ウイルス学会ホームページの移管

事務局 (北里生命科学研究所) から春恒社に <http://clvirol.org/>

### 2. 活動報告

## 学術集会の開催

### \* 第 58 回日本臨床ウイルス学会(平成 29 年度)

会長 森内 浩幸 (長崎大学大学院医歯薬学総合研究科医療科学専攻  
展開医療科学講座小児科学分野教授)

平成 29 年 5 月 27(土)・28 日(日) 長崎大学 良順会館

### \* 第 59 回日本臨床ウイルス学会 (平成 30 年度)

会長 沼崎 啓(国際医療福祉大学大学院 医療福祉学研究科 国際感染症学 教授) 平成 30 年 6  
月 9 (土)・10 日(日) 大宮市 大宮ソニックシティ

## 予防接種推進専門協議会に参加

- HPV ワクチン接種推進に向けた関連学術団体の見解
- 風疹ゼロプロジェクトのお知らせ
- 日本耳鼻科学会からの難聴の中間報告
- ワクチンの安定供給に関する要望書
- おたふくかぜワクチンの定期接種化に関する要望書

## 学会誌「臨床とウイルス」の発行 45-1, 2, 3, 4, 5

45-1 : 特集 臨床ウイルス分野の海外協力

45-2 : 第 58 回日本臨床ウイルス学会プログラム抄録集

45-3 : 特集 迅速診断キットの現状・その長所・改良すべき点

45-4 : 特集 第 58 回日本臨床ウイルス学会特集号

45-5 : 特集 中枢神経系とウイルス感染症

臨床とウイルス 増刊号 : 「ウイルス検査法 : 臨床と検査室のための手引き」

学会員には 46-3 号と一緒に発送予定

役員・幹事 (平成 29 年 6 月ー平成 31 年 6 月)

総務幹事 : 中山 哲夫

常任幹事 : 庶務 細矢 光亮

編集 田中 智之

会計 皆川 洋子 春恒社

幹事 : 沼崎 啓、吉川 哲史、奥野 良信、寺田 喜平、牛島 廣治、白木 公康、  
堤 裕幸、山田 雅夫、森内 浩幸、竹田 誠、斎藤 昭彦

監事 : 柴鶴義人、尾崎隆男

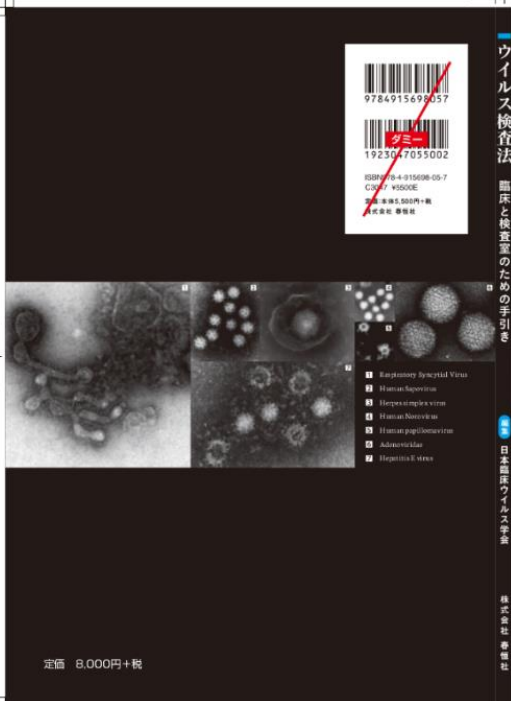
臨床とウイルス

編集担当 : 田中 智之

編集委員 : 尾崎隆男、田中 智之、永淵正法、中山 哲夫、皆川 洋子、森内 浩幸  
吉川 哲史、多屋馨子

臨床とウイルス 増刊号 ウイルス検査法 臨床と検査室のための手引き

臨床とウイルス 46-3 号と一緒に発送いたします。



ウイルス検査法 臨床と検査室のための手引き 日本臨床ウイルス学会 株式会社 春風社



I 総論 1 感染症サーベイランス

Key Words : 感染症流行予測調査事業、抗体保有状況調査、感染症サーベイランス、NESID

1. はじめに

国内で実施されている感染症サーベイランスにはさまざまな種類がある。

まず、「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」(以下、感染症法<sup>1)</sup>)に基づいて実施されているサーベイランスは、感染症発生動向調査事業(発生動向調査事業)によって行われ、患者情報や病原体情報などをサブシステムとして統合する感染症サーベイランスシステム(National Epidemiological Surveillance of Infectious Diseases: 以下、NESID)がその中心である。また、予防接種法に基づいて実施されているサーベイランスには、感染症流行予測調査があり、定期的な予防接種(以下、定期接種)対象疾患に関して、国民の抗体保有状況が毎年調査されている。その他、学校保健安全法に基づいて出席停止となった感染症のうち、インフルエンザと麻疹については、毎週欠席者数が集計されており、感染症に対するサーベイランスとしても重要な役割を担っている。本稿では、おもに法律に基づいて実施されているサーベイランスについて、概説したい。

公表、発生状況および動向の把握は感染症法第十二条に基いて実施されている。感染症サーベイランス(患者情報・病原体情報)の体制概要について図1に示す。

発生動向調査事業の対象感染症については、大きく全数把握および定点把握の疾患に大別される。全数把握対象疾患は、周囲への感染拡大防止を図ることが必要で、発生数が比較的少なく、定点を基にした正確な傾向把握が不可能な場合に対象となっている。定点把握対象疾患については、発生動向の把握が必要なもののうち、患者数が多数で、全数を把握する必要はないと考えられている場合に該当する。患者数の選定については、都道府県は感染症法に規定する指定届出機関として、一定の基準に基づき患者数および疑似症定点を選定し情報を収集する。

発生動向調査事業では、患者情報は、対象となる感染症を診断した医師・獣医師(定点把握疾患については指定届出機関の管理者)から保健所に届け出られる<sup>2)</sup>。これらの情報については、診断医から届出られた内容を保健所が確認のうえでNESIDへの入力登録を行い、この時点で都道府県を通じて、厚生労働省にリアルタイムで報告されている<sup>3)</sup>。さらに自治体内における地方感染症情報センターにおいては、管轄地域の厚労データを精査して確認するステップがあり、当該届出が基準を満たしているかどうかを確認する。国立感染症研究所内の中央感染症情報センター(国立感染症研究所感染症学センター)からも地方感染症情報センターに問い合わせなどにより情報を精査することがあり、集計としてのデータの精査が複数のハピアを通じて行われるようになっている。このように、わが国における感染症サーベイランスはNESIDをベースに標準的な手法により全国を対象に行われ、また精査されたデータについて

2. 患者サーベイランス

発生動向調査事業は、1981(昭和56)年から18疾病を対象に開始され、1987(昭和62)年1月からはコンピュータを用いたオンラインシステムにおいて27疾病を対象にする等に拡大されて運用されてきた。そして、1999(平成11)年4月に感染症法が施行されたことに伴い、発生動向調査事業は感染症法に基づく施策として位置づけられた。発生動向調査事業のなかで、国内の感染症に関する情報の収集および

最終的な集計が行われることが特徴の一つである<sup>4)</sup>。二類感染症の精核は、業務上の取り扱いが異なる。感染症の疾病者等については、感染症類型ごとに表1に示す(平成28(2016)年2月5日現在)。

なお、収集された患者情報は、国レベルでは自治体を経て国立感染症研究所等の担当者による集計や分析が行われたのち、国民、医療関係者等へ還元されている。代表的な還元主体として、感染症法に基づき収集した患者の発生状況(報告数、推移等)については、感染症発生動向調査週報(infectious diseases weekly report: IDWR)として週1回の頻度で報告されている<sup>5)</sup>。また、流行期を含むインフルエンザの発生状況に関する迅速な還元情報としては、インフルエンス流行レベルマップがあげられる<sup>6)</sup>。

感染症サーベイランス

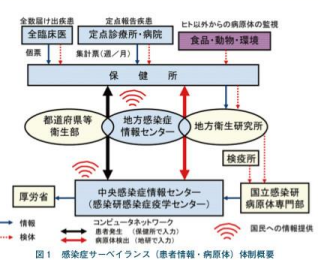


図1 感染症サーベイランス(患者情報・病原体)体制概要

3. 病原体サーベイランス

わが国における全国レベルの感染症サーベイランスは、昭和56(1981)年7月に国の予算事業として開始されたが、それに先立ち国立予防衛生研究所(現・国立感染症研究所)と全国の地方衛生研究所(以下、地研<sup>7)</sup>)との連携をはかるため、昭和55(1980)年に衛生微生物技術協議会が組織され、感染症等の調査を目的としたネットワークが形成された<sup>8)</sup>。現在の病原体サーベイランスの原形が地研や旧・国立予防衛生研究所のネットワークにより開始されたものであることは、わが国の感染症の監視体制の構築における大きな特徴の一つといえよう。

病原体情報の取り扱いについては、平成28(2016)年に大きな変化があった。すなわち、平成26(2014)年11月の感染症法改正に伴い、感染症法に病原体の検出に関する明確な規定が設けられ、平成28(2016)年4月1日から感染症に対する情報収集体制が強化された<sup>9)</sup>。すなわち、すべての感染症について、都道府県知事が患者等に対し検体の採取等に応じるよう要請できるようになったとともに、医療機関等に対して保有する検体を提出することを

## 資料2 日本臨床ウイルス学会収支報告

平成29年度 日本臨床ウイルス学会 収支計算書 (2017年1月1日～2017年12月31日)				
収入の部		(単位：円)		
科目	予算額	決算額	増減	備考
前年度繰越金	5,000,878	5,000,878	0	
<b>会費</b>	<b>8,100,000</b>	<b>7,900,000</b>	-200,000	
正会員会費	6,800,000	6,600,000	-200,000	
賛助会員費	1,300,000	1,300,000	0	
掲載料	100,000	170,000	70,000	
広告収入	500,000	479,520	-20,480	45-1、45-3～45-5
別売り収入	400,000	310,541	-89,459	
雑収入	110,000	86,704	-23,296	著作権使用料、利息
<b>当期収入合計</b>	<b>9,210,000</b>	<b>8,946,765</b>	-263,235	
<b>合計</b>	<b>14,210,878</b>	<b>13,947,643</b>	-263,235	
支出の部				
科目	予算額	決算額	増減	備考
<b>事業費</b>	<b>6,100,000</b>	<b>7,442,106</b>	1,342,106	
<b>雑誌経費</b>	<b>5,500,000</b>	<b>6,852,106</b>	<b>1,352,106</b>	45-1、45-3～45-5
<b>印刷費</b>	<b>4,000,000</b>	<b>5,133,456</b>	<b>1,133,456</b>	
発送費	400,000	369,421	-30,579	
原稿料	1,000,000	1,136,524	136,524	
編集経費	100,000	200,853	100,853	査読・校正等 費用
ウイルス検査法	0	11,852	11,852	
抄録集学会支援	500,000	500,000	0	第58回
若手奨励賞	100,000	90,000	-10,000	
<b>管理費</b>	<b>1,490,000</b>	<b>1,540,851</b>	50,851	
事務費	200,000	364,435	164,435	表彰用品、抄録集事務局購入分、発送費、コピー代等
会議費	10,000	0	-10,000	
諸会費	80,000	80,000	0	臨床検査標準協議会、予防接種推進専門協議会
業務委託費	1,200,000	1,096,416	-103,584	
<b>当期支出計</b>	<b>7,590,000</b>	<b>8,982,957</b>	1,392,957	
次期繰越金	6,620,878	4,964,686	-1,656,192	
合計	14,210,878	13,947,643	-263,235	
当期収支差額		1,620,000		-36,192

## 監査報告書

日本臨床ウイルス学会平成29年度(2017年度)収支決算報告書を監査した結果、正確妥当なものと認めます。

平成30年5月21日

監事 尾崎隆男



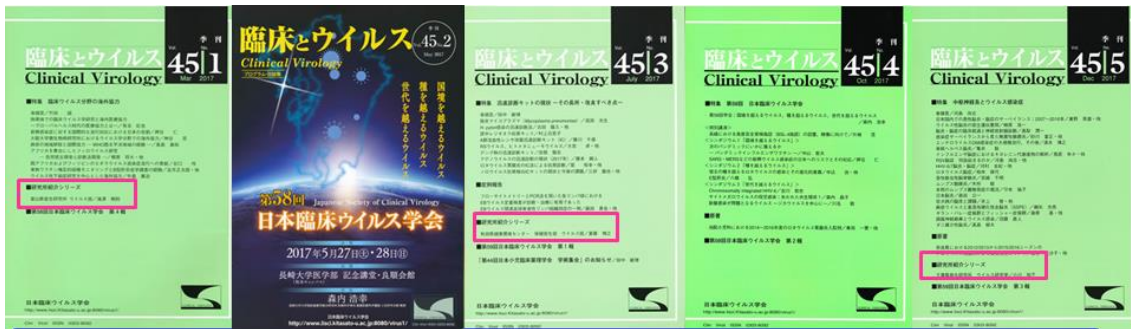
平成30年5月27日

監事 栄鶴義人



資料4 平成30年度 日本臨床ウイルス学会 予算案 (2018年1月1日～2018年12月31日)

収入の部		(単位：円)	
科目	前年度予算額	予算案	備考
前年度繰越金	5,000,878	4,964,686	
会費	8,100,000	8,100,000	
正会員会費	6,800,000	6,800,000	
賛助会員費	1,300,000	1,300,000	
掲載料	100,000	100,000	
広告収入	500,000	500,000	46-1、46-3～5
別売り収入	400,000	400,000	
雑収入	110,000	110,000	
当期収入合計	9,210,000	9,210,000	
合計	14,210,878	14,174,686	
支出の部			
科目	前年度予算額	予算案	備考
<b>事業費</b>	<b>6,100,000</b>	<b>8,260,000</b>	
<b>雑誌経費</b>	<b>5,500,000</b>	<b>5,500,000</b>	
<b>印刷費</b>	<b>4,000,000</b>	<b>4,000,000</b>	46-1、46-3～5
発送費	400,000	400,000	
原稿料	1,000,000	1,000,000	
編集経費	100,000	100,000	査読・校正等 費用
<b>ウイルス検査法製     作費</b>	<b>0</b>	<b>2,160,000</b>	
抄録集学会支援	500,000	500,000	第59回
若手奨励賞	100,000	100,000	
管理費	1,490,000	1,490,000	
事務費	200,000	200,000	発送費、コピー代、手数料
会議費	10,000	10,000	会議交通費
諸会費	80,000	80,000	臨床検査標準協議会、予防接種推進専門協議会
業務委託費	1,200,000	1,200,000	春恒社委託費
当期支出計	7,590,000	9,750,000	
次期繰越金	6,620,878	4,424,686	
合計	14,210,878	14,174,686	
(当期収支差額)	1,620,000	-540,000	



**特集** 45(1) 臨床ウイルス分野の海外協力 (9編) (オーガナイザー Dr.竹田 誠)  
 45(3) 迅速診断キットの現状 - その長所・改良すべき点 - (10編) (オーガナイザー Dr.田中敏博)  
 45(4) 第58回 日本臨床ウイルス学会 巻頭言 第58回学会 国境を越えるウイルス, 種を越えるウイルス, 世代を越えるウイルス (学会報告 9編) (オーガナイザー Dr. 森内浩幸)  
 45(5) 中枢神経系とウイルス感染症(20編) (オーガナイザー Dr. 河島 尚志)

45(3) 床例報告:フローサイトメトリーとPCR法を用いた各リンパ球におけるEBウイルス定量検査が診断・治療に有用であったEBウイルス関連血球貪食性リンパ組織球症の一例。  
 Drs. 飯田貴也, 今川智之 (神奈川県立こども医療センター)  
 45(4) 原著: 当院小児科における2014~2016年度のロタウイルス胃腸炎入院例  
 Drs. 春田一憲, 尾崎隆男, 鬼頭周大, 小澤 慶, 後藤研誠, 竹本康二, 吉川哲史, 西村直子 (江南厚生病院こども医療センター, 藤田保健衛生大学医学部小児科学)  
 45(5) 原著: 奈良県における2012/2013から2015/2016シーズンのノロウイルス胃腸炎による集団発生について。  
 Drs. 藤谷美沙子, 米田正樹, 稲田真知, 千葉翔子, 尾西美咲, 中野 守, 榮井 毅 (奈良県保健研究センター)

**研究所紹介シリーズ**  
 45(1) 富山県衛生研究所 ウイルス部 Dr. 滝澤 剛則  
 45(3) 秋田県健康環境センター 保健衛生部 ウイルス班 Dr. 斎藤 博之  
 45(5) 千葉県衛生研究所 ウイルス検査室 Dr.小川 知子

**資料5 臨床とウイルス 投稿規定**

- 1) 学会事務局の春恒社で一貫して原稿の受付、初校、校正、印刷、発行を行うことで白橋から春恒社へ変更することが承認された。
- 2) 投稿規定の変更 英文抄録をつけることになったが字数がまちまちであり統一することが提案され承認された。
  - \*要旨の字数制限 400 字以内
  - \*英文要旨の字数制限 250 words
  - \*カラーの図表: カラー図の必要性

## 第5回 若手奨励賞

若手奨励賞選考委員会において候補演題 8 演題が選出され、講演後選考委員会を開催し以下の 3 名が若手奨励賞を受賞された。

東本	祐紀	藤田保健衛生大学 医療科学部 臨床検査学科	ロタテックワクチン(RV5)接種後の便中ワクチンウイルス株 排泄の解析
稲垣	拓哉	国立感染症研究所 ウイルス第一部	報告されているアシクロビル治療抵抗性の HSV-1 脳炎患者で検出された HSV-1 チミジンキナーゼ遺伝子変異がアシクロビル耐性を誘導するかの検証
三根	敬一郎	九州大学 生体 防御医学研究所 感染制御学	新規ウイルス糖尿病感受性遺伝子の同定を目的とした DBA/2 マウスの病態解析

### その他

バックナンバー購入希望は 注文票：臨床ウイルス学会ホームページにあげますので

注文書送付先：

日本臨床ウイルス学会会員事務局

〒169-0072

東京都新宿区大久保 2-4-12 新宿ラムダックスビル 9 階

(株) 春恒社 学会事務局内

TEL: 03-5291-6231 FAX: 03-5291-2176

E-mail:cl.virol-kaiin@shunkosha.com

必要事項をご記入の上、FAX・メール又は郵送にてお送り下さい。